

平成30年度 草津型チーム学校

<現状>

- ☆学校が抱える課題は複雑化・多様化。
- ☆それに伴い教職員の業務が増加し、負担も増加。

教職員を中心に多様な専門性を持つスタッフを学校に配置し、校長のリーダーシップにより、学校の教育力、組織力の向上を図る。

校長のリーダーシップ・マネジメントの充実

教職員

校長、教頭、教員、事務職員、管理補助業務員

小学校少人数学級編制教員

小中連携加配教員

小学校授業充実加配教員

中学校生徒指導主事加配教員

少人数指導加配教員

専門スタッフ

学校問題サポートチーム会議
中学校区別小中連携グレードアップ連絡会
スクールソーシャルワーカー活用事業
学校問題対策委員会
いじめ等問題行動対策アドバイザー派遣
適応指導教室やまびこ
スキルアップアドバイザー配置事業
通級指導教室
ことばの教室
教育支援委員会
子どもの体力向上

部活動指導員

家庭学習サポーター

学校保健支援員

スクールカウンセラー

スクールソーシャルワーカー

弁護士

看護師

スキルアップアドバイザー

学校司書

ICT支援員

英語指導助手(ALT・JTE)

外国人児童生徒教育相談員

ことばの教室指導員

特別支援教育巡回相談員

サポートスタッフ

コミュニティ・スクールくさつ推進事業
スクーリングケアサポーター派遣事業
地域協働合校

部活動支援員

教室アシスタント

学校図書館運営サポーター

体力向上サポーター

学校ボランティア

スクーリングケアサポーター

地域コーディネーター

スクールガード

インクルーシブサポーター

学校図書館ボランティア

学生ボランティア

授業や子どもの指導の充実

地域とともにある学校づくりの推進

学校の教育力・組織力の向上



草津市学校業務改善プラン【概要】



～「先生が子どもと向き合う時間」を作り出し、より質の高い教育を実現するために～

プラン策定の背景

<学校の現状>

- ・社会情勢の大きな変化に伴い、学校が抱える課題は複雑化・多様化。学校の業務は増加の一途。
- ・それに伴い、教職員の業務が増加。子どもと向き合う時間や授業の準備・教材研究などの時間の確保が困難に。学校単位での業務改善だけでは解決は不可能。



教育委員会主体の総合的な学校の業務改善プランが必要！

学校の業務改善のための取組

- 教育委員会が主体となり、6カテゴリー、20事項からなる草津市独自の多岐にわたる学校の業務改善のための取組を強力に推進。
- 市立小中学校の教職員の負担を軽減し、ワーク・ライフ・バランスの実現や、子どもと向き合う時間や授業の準備、教材研究などの時間を確保し、教育の質の向上を目指す。

<具体の取組内容>

(1)業務環境の改善

- ①校務支援システムの活用促進 ②総合教材ポータルサイト「たび丸ねっと」の活用促進
- ③学校徴収金会計業務の適正化 ④学校事務の共同実施の推進
- ⑤各校における会議の効率化の推進 ⑥教育委員会における勤務実態の把握・休暇取得の促進

(2)チーム学校の推進

- ①県による配置を上回る教員やスタッフの配置 ②市費によるスタッフの配置
- ③養護教諭不在時の学校支援システムの構築

(3)ボランティアの活用促進

- ①地域住民によるボランティア活動の促進 ②学生ボランティア派遣システムの構築

(4)市から学校へ依頼する業務の見直し

- ①教育委員会から学校への調査依頼の見直し ②教育委員会が主催する会議・研修の見直し
- ③教育委員会以外の市の部局等から学校への依頼の精選・工夫
- ④学校への連絡等を行う時間帯等の配慮

(5)部活動の見直し

- ①部活動休養日や活動時間の検討 ②運動部活動指導員派遣システムの構築

(6)学校運営体制の強化

- ①コミュニティ・スクールくさつの推進 ②学校問題サポートチームの活用
- ③教職員のタイムマネジメント力の向上

※上記取組のうち、(1)⑥中の「教育委員会における各校の勤務実態の把握」、(2)②中の「看護師の配置」「教室アシスタントの配置」、③の「養護教諭不在時の学校支援システムの構築」、(3)②の「学生ボランティア派遣システムの構築」、(5)②の「運動部活動指導員派遣システムの構築」は平成29年度からの新規施策



進捗状況や実効性を適宜フォローアップ

フォローアップ結果を踏まえて**更なる改善策を検討**